

## 香取市電気事業経営戦略

団 体 名 : 香取市

事 業 名 : 電気事業

策 定 日 : 令和 3 年 1 月

計 画 期 間 : 令和 2 年度 ~ 令和 11 年度

## 1. 事業概要

## (1) 事業形態等

法適用(全部適用・一部適用)・法非適用の区分	法非適用		
職 員 数	人	最大出力 * 1	1,750 kw
発 電 施 設 数	水力発電 箇所	年間発電電力量 * 1	5,791,000 kwh
	風力発電 箇所	kwh 当たり単価 * 1	38.12 円
	太陽光発電 5 箇所	FIT 適用販売施設数	5 箇所
	ごみ発電 箇所	平均施設稼働年数 * 1	5.6 年

\* 1 最大出力については保有している発電施設のうち最大のものを記載。年間発電電力量及び年間電力料収入は、保有する全ての発電施設の合計を記載。  
kwh当たり単価及び平均施設稼働年数は、保有する全ての発電施設の平均を記載。

## (2) 現在の経営状況

年間電力料収入 * 1 ※過去3年度分を記載	H29	250,523 千円	H30	244,898 千円	R1	240,276 千円
経常収支比率 (又は収益的収支比率) ※過去3年度分を記載	H29	106.85 %	H30	114.08 %	R1	112.40 %
純 損 益 ※過去3年度分を記載	H29	17,458 千円	H30	19,038 千円	R1	15,483 千円
資金不足比率 * 2 ※過去3年度分を記載	H29	0.00 %	H30	0.00 %	R1	0.00 %

## 【上記の指標等を踏まえた現在の経営状況の分析】

単年度の営業収支は黒字であるが、概ね減少する方向で推移している。これは収益の増加率が維持管理費の増加率を下回っていることによる。健全経営を続けていくために、大規模修繕等を見据えた計画的な基金積み立てを着実にやっていく。

\* 2 ここでいう資金不足比率とは、地方財政法による資金不足比率を指し、以下の算式により算出するものとする。

資金不足比率〔法適用企業の場合〕 = (地方財政法第15条第1項により算定した資金の不足額) / ((営業収益) - (受託工事収益)) × 100

資金不足比率〔法非適用企業の場合〕 = (地方財政法第16条第1項により算定した資金の不足額) / ((営業収益) - (受託工事収益)) × 100

## 2. 経営の基本方針

施設修繕、管理やメンテナンスにかかる費用など今後の支出増要因に対する資金確保等を踏まえた経営が必要となる。  
また、固定価格買取制度の調達期間終了後は収入が減少するリスクが高いことから、終了時期を見据えて、事業廃止等を検討する。

## 3. 投資・財政計画(収支計画)

(1) 投資・財政計画(収支計画)：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画(収支計画)の策定に当たっての説明

### ①収支計画のうち投資についての説明

現状において、経営の健全性及び効率性は確保されているが、今後の大規模修繕等の財源について基金積み立てを着実に行う等、計画的な維持管理を行う必要がある。

### ②収支計画のうち財源についての説明

固定価格買取制度を活用した売電収入が主な財源である。各年度ごとに次のとおり計上した。

令和元年度まで…実績額を計上

令和2年度以降…令和元年度までの実績を基に今後の発電量下落率を予測し各年度の収入を計算した。

### ③収支計画のうち投資以外の経費についての説明

営業費用として管理費〔需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、公課費〕を年度ごとに次のとおり計上した。

令和元年度分まで…実績額を計上

令和2年度、3年度…予算額を基に計上

令和4年度以降…需用費(修繕料除く)、役務費、委託料、使用料及び賃借料の令和元年度までの年度平均額＋修繕料(与田浦発電所1000万円/年度・ほか4発電所 500万円/年度)＋公課費(2000万円/年)として計上

(3) 投資・財政計画(収支計画)に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

(1)において、純損益(法適用)又は実質収支(法非適用)が計画期間の最終年度で黒字とならず、赤字が発生している場合には、赤字の解消に向けた取組の方向性、検討体制・スケジュール等を記載すること。

\* (1)において黒字の場合においても、投資・財政計画(収支計画)に反映することができなかった検討中の取組や今後検討予定の取組について、その内容等を記載すること。

設備の老朽化に伴う修繕料の増加が予想されるため、日常点検や異常発生時の初期対応を適切に行うことで費用を抑制するよう努める。

#### 4. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、更新等に関する事項	毎年度進捗管理(モニタリング)を行い、状況に応じて3~5年ごとに見直し(ローリング)を行う。
---------------------	--